

語彙のネットワーク構築のための連語による指導 —初級クラスにおける語彙指導の試み—

三好 裕子

科目名：ことばのネットワークを作ろう
レベル：初級 1・2 / 中級 3・4・5 / 上級 6・7・8
履修者数：35名

1. 授業の概要

語彙知識は、個々の語がつながりを持ち、ネットワークを形成していると言われている。本授業の目的は、学習者が日本語の語の結びつき方を知り、日本語の語彙のネットワークを構築していけるよう、その基礎となる知識と、学習の方法を身につけることである。

授業は、オリジナル教材「ことばのネットワークシート（以下シートと呼ぶ）」を中心教材とし、橋本（2016）を参考に学習者にとって身近で平易なトピックを毎回提示し、そのトピックに関する語を関連づけながら学ぶことを目指した。授業では、グループワークを入れながらシートの問題を考えさせ、解説した。毎授業後にわかったこと・わからなかったことを書かせ、また、学習した語の短文作りを宿題とした。次の回で確認のための小テストを行い、小テスト準備のためのオンライン・クイズも作成し、使用を勧めた。

シートは、次の4点を狙いとしている。①日常的な場面、事象をどう表すかを連語¹⁾で学ぶ。②連語の中の語と結びつく語を考えることでネットワークを広げる。③連語の中の助詞に注目させ、整理の時間を設けて助詞の理解を図る。④その他のトピックに関連する語句も同時に学ぶ。

例	箸 chopsticks	[で]	ご飯	[を]	食べます(食べる)
	カップ cup	[で]	コーヒー	[を]	飲みます(飲む)
	<input type="text"/>	[で]	<input type="text"/>	[を]	食べます(食べる)
	<input type="text"/>	[で]	<input type="text"/>	[を]	飲みます(飲む)
箸 ご飯 コーヒー カップ お茶 肉 魚 西瓜 寿司 ワイン スープ 薬 卵 スプーン グラス					

図1 「ことばのネットワークシート」例（形式1）

図1は第1回「食べる」のシートの一部で、連語を用い、語を増やし

つつ語の結びつき方を学ぶ、上記の①～③を狙いとした問題（形式1）である。指導では、まず、何を「食べる」かを考えさせた。「スープ」「薬」は通常「飲む」であることを教え、その他の例を挙げさせながら「食べる」と「飲む」の違いを考えさせた。さらに、「で」のに入るものを考えさせ、道具の「で」の理解を図った。また、①を狙いとして、事象を絵や英語訳で提示し、名詞を示して動詞を考えさせる問題（形式2）を作った。形式1, 2が連語を用いた問題形式である。さらに、④を狙いとして、絵の中の物の名前を考えさせる問題（形式3）、関連する語句を提示し、調べさせる問題（形式4）も入れた。語句の選定は、『実践日本語教育スタンダード』等を参考にした。

2. 学生の評価

アンケート調査を行い、29名から回答を得た。各問題形式と助詞のまとめについて「役立つと思うか」を5段階評価で調べた(表1)結果、形式1, 2の連語を用いた問題と助詞のまとめの評価が高かった。また、授業の長所として、「単語の使い方がわかる」「助詞がわかる」という回答が多かった(図2)。連語により語の結びつき方を学ぶとともに、助詞の理解を図るという狙いは伝わったものと思われる。

表1 役立つと思うか?

問題形式	平均値	SD
形式1	4.55	0.783
形式2	4.62	0.494
形式3	4.38	0.942
形式4	4.03	1.085
助詞のまとめ	4.48	0.986

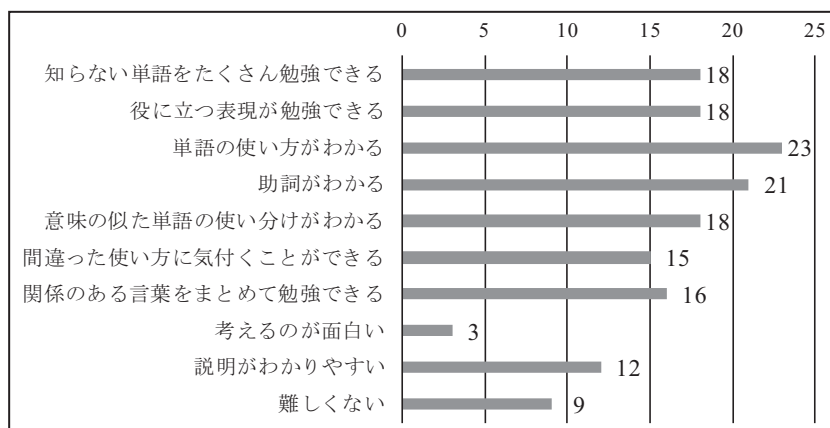


図2 「この授業のよいところは？」複数回答可(回答者数29)

3. 今後の課題

アンケートの結果では、面白さの点で評価があまり高くなかった。学生の日本語レベルにばらつきがあり、その対応がうまくできなかったこと、活発なグループワークがあまりできなかったことが要因だと思われる。また、レベルの低い学生にとっては、記憶の負担がかなりあり、定着には至らないことも多かった。これらの点の改善が課題である。

注

- 1) 本稿では、自由結合も含め、統語関係を持つ語と語の結びつきを連語として扱う。

参考文献

- 橋本直幸 (2016) 「話題から見た語彙シラバス」 森篤嗣 (編) 『ニーズを踏まえた語彙シラバス』 33-51
- 橋本直幸, 金庭久美子, 田尻由美子, 山内博之 (編著) (2013) 『実践日本語教育スタンダード』 ひつじ書房

(みよし ゆうこ, 早稲田大学日本語教育研究センター)